

平成 30 年度 集いの場交流会まとめ（抜粋）

日 時：平成 30 年 11 月 1 日（木） 午後 2 時～午後 4 時 15 分

場 所：吹田市文化会館（メイシアター）集会室

参加者：85 人（アンケート回収数：79） ※47 団体（内訳：福祉委員会 26、高齢クラブ 4、その他 17）

スタッフ：32 人 ※16 地域包括支援センター、CSW 等

内 容：（第 1 部）

- ・吹田市高齢者生活支援体制整備事業の取り組みについて（吹田市 高齢福祉室）
- ・実践報告 ①参加者が「やりたいこと」をカタチに（千一地区福祉委員会）
②参加者が役割を担う「集いの場」（市場サロン）
- ・講演「支えられる高齢者から、主体的に取り組む高齢者への転換」
（大阪教育大学 教授 新崎 国広 氏）

（第 2 部）

- ・交流会「参加者が主体的に取り組む・活動するため、運営団体が意識すること」
「参加者を主体者」として捉えた際、
①各団体ではどのような取り組みができますか ②既に取り組んでいる内容
③今後取り組みたい内容・イメージ

（グループ交流の主な意見）

- ①昼食会では、食後に湯呑や弁当箱をテーブルの 1 ヶ所にまとめてもらうなど、出来ることをしてもらっている。
- ②以前は湯呑（お茶）も配っていた。今は各テーブルにお茶を置いてセルフサービスで入れてもらっている。後片付け時に、食器を重ねるなど少しでもしてくれると助かる。会場が定員いっぱいなので、参加者が動く困ることも。
- ③当事者（高齢者）もスタッフとして参加。今後、ボランティア、職員も交えて企画したい。
- ⑤毎月イベントしているが、参加者が受け身の内容が多かった。今回は各年代（高齢）の方々にどのような生き方をしてきたのかの自慢話しをしていただく機会を作り、好評だった。
- ⑥軽食（100 円）を出している。7 ヶ月に 1 回当番が来る。その時は「スタッフ」だが、それ以外は「参加者」として参加するなど、スタッフになったり参加者になったりしている。
- ⑦早く来た人が椅子を並べるなど準備する。初めは参加者として参加していたが「これなら手伝えるかな」と思って今は手伝う側になっている人もいる。
- ⑧参加者が主体的に行ってもらえるようになるには壁がある、と感じている。
- ⑨昼食会で高齢者は参加するだけになっている。受付を手伝ってもらえたら、と考えている。
- ⑩自主的に椅子などを片付けてもらう。椅子の入れ場所（片付け場所）を考える。椅子の積み方を少なくするなどの配慮が必要。参加者に各自で片付けするよう声をかける。

1. 第1部 実践報告・基調講演について

- ・2団体の実践報告について よくわかった (61) ふつう (16) 無回答 (2)
 - ・千一地区福祉委員会は、高齢者にアンケートを取り実行したことが参考になった。
 - ・市場サロンは、近くで開設したこと、参加者で役割分担していることが素晴らしい。
- ・基調講演について よくわかった (70) ふつう (9)
 - ・時には上手くいかないこと、失敗したこともあるが、先生の話がいつも「明日も頑張ろう」「今度もやってみよう」という気持ちになる。
 - ・大変参考になった。持ち帰って生かしたい。(多数)

2. 第2部 交流会について 大変よかった (51) ふつう (18) よくなかった (1) 無回答 (9)

- ・各団体の活動内容が聞けたのが良かった。(多数)
- ・地区(ブロック)ごとで話し合ったので、身近な内容でわかりやすかった。
- ・近くの地区(ブロック)の交流だった。他地区(ブロック)との交流がよかった。
- ・時間が少なく十分な意見交換ができなかったのが良くない。

3. 今回の交流会のテーマ『高齢者が主体者になる「集いの場」』を貴団体で取り組むにあたり、ご意見があれば記入ください。

これから取り組みたいこと

- ・高齢者が「お客様」でなく、主体者になっていくような内容を検討していく。
- ・福祉委員会だけでなく、地域他団体や組織と交流し新しいことにチャレンジしたい。
- ・元気な参加者に手伝っていただけるようなサロンにしたらよいか。
- ・高齢者といっても75歳～80歳過ぎの方は大変元気なので、サロンや体操などの集いの場を開催する時に、是非支える方に参加していただきたい。
- ・いきいきサロン開催時、福祉委員だけがお世話するのではなく、参加者にも出来る範囲でお手伝いをお願いしてみようと思う。
- ・参加者にアンケートをとったままになっているので、千一地区のように少人数でも進めていきたい。
- ・地域住民と専門職、介護保険事業所と一緒に地域課題を考えたり、取り組みを考えたりできれば、と考えている。

課題や悩みなど

- ・ボランティアを退かれた方の対応方法(閉じこもりになってしまう)。
- ・参加者を「お客さん」にせず、みんなで作り上げるようなサロンになれば良い。
- ・現状に満足している。一歩抜け出すことの難しさを感じている。